

## 地域の伝統・文化を後世に継承する

あぶでん  
油伝味噌株式会社

江戸時代中期に創業し、230年にわたって営業している油伝味噌株式会社では、日本や地域の文化及び伝統食文化を維持し、後世に継承していくことを強く意識し、様々な地域活動を展開している。

その活動は大きく分けて3つある。1つは「伝統食文化」を維持・継承する活動で、味噌屋という本業を生かした活動である。2つ目は「日本の伝統文化」を維持・継承する活動で、「土壁づくり体験」などの活動を行っている。3つ目は「地域の歴史的なまちなみ」を継承する活動で、「栃木の例幣使街道を考える会」（栃木市）を通したまちなみ保存活動を行っている。この会は、旧例幣使街道地域のまちづくりを目的に代表取締役の小池英夫氏が20年程前に立ち上げ、現在事務局を務めている団体で、2009年度には、活動が評価され、都市景観大賞「美しいまちなみ賞」の「美しいまちなみ大賞（国土交通大臣賞）」を受賞した。

### □■□会社概要□■□

江戸時代中期に油屋で創業した230年続く老舗の味噌屋である。味噌の製造を始めてから今日に至るまで、日本の伝統的な味の文化を継承していくことを念頭に、本物の味噌づくりを続けている。

### ■□■企業データ■□■

#### ●代表者

小池英夫（代表取締役）

●所在地 〒328-0072

栃木県栃木市嘉右衛門町5-27

●設立年 1781年

●従業員数 6名

●TEL 0282-22-3251

●FAX 0282-22-3252

### —都市景観大賞「美しいまちなみ賞」とは？—

都市景観大賞とは、都市景観に対する市民の関心を高めることを目的に、1991年度に創設された賞。「美しいまちなみ賞」は2001年度より実施されており、美しいまちなみを創り、育てるために、行政と民間が協力し、ハードとソフトを含めた総合的な取組が行われている地区を全国から募集し、その中でも特に優れた地区について表彰を行っている。

### 味噌造り体験

油伝味噌が続けている活動の一つに、「味噌造り体験」がある。この取組のきっかけは、小池氏の子息の小学校給食で味噌汁がほとんど出ていないのを知ったことである。それに加えて家庭でも味噌汁を飲む機会が減っており、これではいけないと思い活動を始めた。

2010年の6月に栃木市立栃木第五小学校で行った活動では、児童の父母ら40名が参加し、40kgの味噌の仕込み作業と、豆腐田楽など味噌を使ったレシピを教える料理教室を行った。味噌の仕込み作業はまず、煮て柔らかくなった大豆をつぶし、米こうじや塩を加えてよく混ぜる。それを団子状にし、なるべく空気が入らないように桶の中に入れていく。桶の上に重石をのせて、約半年間発酵させる。2010年は猛暑の影響で例年よりも早く発酵が進み秋の初めには味噌が参加者の家に配られた。

父母を対象とした「味噌造り体験教室」は2008年から始まったが、それ以前は児

童を対象にした味噌造り体験も行っていた。この時は甘酒も一緒に作り、とても喜ばれた。体験教室で造ったみそは、小学校の給食に使われた。油伝味噌には毎年15校ほどの小学生が味噌蔵見学を訪れた。



味噌造り体験教室の様子

### 栃木の伝統文化を子どもたちに伝える

油伝味噌は、子どもたちが昔の文化に触れ、体験するイベントを行っている。2002年に小池氏の自宅を新築する際に、近所の小学生を集め、工務店の協力により「土壁づくり体験」を行った。

土壁は「蔵の街」を形作る和風建築の伝統的な壁のひとつで、湿気の吸収・排出や断熱効果に優れており、夏涼しく冬暖かい。1年目は小学生たちには材料となる土を裸足になってこね回したり、泥団子を作って竹で下地をした壁に貼りつける作業を、2年目は土壁に漆喰や色を塗る作業を体験してもらった。作業後も子どもたちは、自分

たちの作った壁が気になるのか、たびたび様子を見に来ていた。また、この活動は、地域で30～40年も途絶えている土壁造りの技術伝承にも貢献している。



土壁づくり体験の様子

### 市民が守る「蔵の街」

油伝味噌では20年程前から歴史的な街並みを守る活動を行っている。

栃木市は現在でも江戸時代の豪商の蔵が多く残されていることから「蔵の街」と呼ばれているが、時代の流れと共に近代的な

建物が増え、派手な看板などが蔵を覆い隠し、情緒ある街の風景が失われていた。

そのため、栃木市では1990年頃からアーケードや歩道橋、看板の撤去、電柱の地中化などを実施し、対象地域である大通り

とその周辺地域は再び「蔵の街」の風景を取り戻したが、油伝味噌の店舗と工場がある旧日光例幣使街道地域は対象にはならなかった。その上、道幅が狭い街は、事故が多いという問題も抱えており、「このままだと私たちの地区は取り残されてしまうのではないか」という危機感を抱いた小池氏は「自分たちで何かできないか」と考え、近隣の住民と協力して1992年に栃木の例幣使街道を考える会を立ち上げた。

まずは市に働きかけ、電柱を道路の端に寄せ、道幅を広げるところから始めた。それから、路面や側溝の整備、街灯や塀を趣のあるものに変更するなど、徐々に旧日光例幣使街道の整備を進めていった。

このような市民と行政が一体となったまちづくりが評価され、栃木の例幣使街道を考える会は栃木市、栃木市商店会連合会、うずま川遊会(栃木市)の3団体とともに、「美しいまちなみ大賞(国土交通大臣賞)」を受賞するに至った。



旧日光例幣使街道の様子

### ご近所さんの交流を深める「蓄音機コンサート」の開催

栃木の例幣使街道を考える会では、地元住民が参加できるイベントを開催している。毎年秋に開催しているのが、地域に残る古い建物を会場として行う、蓄音機コンサートである。1929年の英国製の大きな蓄音機を使って古いレコードの音を堪能するもので、2010年は10月に開かれた。高校生からお年寄りまで30名ほどが集まり、近所の人もいれば県外からわざわざ足を運んできた人もいた。会場は大正時代に建てられた日本家屋で、参加者は座布団の上に正座というスタイルで音楽を聴いてもらった。2009年は油伝味噌の味噌蔵でコンサートを行い、味噌桶を反響板にして音を響かせるなど工夫した。毎年蓄音機を貸し出して

くれるのは、市内に住む方で、誰もが一度は聞いたことのあるクラシックの名曲からシャンソンまで、20曲近くを聴かせてくれた。参加者は、休憩時には姿勢を崩して缶ジュースを飲みながら楽しくおしゃべりし交流を深めている。



蓄音機コンサートの様子